

航空従事者技能証明学科試験例題集
各資格共通

航空法規等

2024年8月

科目「航空法規等」(M1)

例題 1

「航空機」の定義で次のうち正しいものはどれか。

- (1) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船その他政令で定める機器
- (2) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船その他航空法別表で定める機器
- (3) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船その他サーキュラーで定める機器
- (4) 飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船その他耐空性審査要領で定める機器

解答 (1)

例題 2

「航空機使用事業」の定義で次のうち正しいものはどれか。

- (1) 他人の需要に応じ、航空機を使用して有償で旅客又は貨物の運送の請負を行う事業をいう。
- (2) 他人の需要に応じ、航空機を使用して有償で旅客又は貨物の運送以外の行為の請負を行う事業をいう。
- (3) 他人の需要に応じ、航空機を使用して無償で旅客又は貨物の運送の請負を行う事業をいう。
- (4) 他人の需要に応じ、航空機を使用して無償で旅客又は貨物の運送以外の行為の請負を行う事業をいう。

解答 (2)

例題 3

飛行規程の記載事項として定められている項目で次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 航空機の概要
- (2) 航空機の性能
- (3) 航空機の限界事項
- (4) 航空機の騒音に関する事項
- (5) 通常の場合における各種装置の操作方法
- (6) 飛行中の航空機に発生した不具合の是正の方法

解答 (6)

例題 4

登録した航空機の所有者の氏名に変更があったときの処置で、次のうち正しいものはどれか。

- (1) 所有者は15日以内に變更登録の申請をしなければならない。
- (2) 所有者は15日以内に移転登録の申請をしなければならない。
- (3) 所有者は10日以内に移転登録の申請をしなければならない。
- (4) 所有者は航空機の定置場に変更があった場合のみ申請が必要である。

解答 (1)

例題 5

まつ消登録の申請について次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 登録航空機が滅失したとき
- (2) 登録航空機を改造のために解体したとき
- (3) 登録航空機の存否が二箇月以上不明になったとき
- (4) 登録航空機の所有者が外国籍になったとき

解答 (2)

例題 6

運用限界等指定書の用途の欄に記載される事項として次のうち正しいものはどれか。

- (1) 自家用又は事業用の区分
- (2) 航空機の最大離陸重量
- (3) 飛行規程の限界事項
- (4) 航空機の等級
- (5) 耐空類別

解答 (5)

例題 7

整備改造命令を受ける者として次のうち正しいものはどれか。

- (1) 航空機の製造者
- (2) 航空機の所有者
- (3) 航空機の使用人
- (4) 航空機の整備責任者

解答 (3)

例題 8

型式証明について次のうち正しいものはどれか。

- (1) 航空機の型式の設計が法第10条第4項の基準に合致していることの証明である。
- (2) 航空機の製造方法についての証明である。
- (3) 航空機個々の設計、製造過程及び現状が基準に適合していることの証明である。
- (4) 航空機の耐空証明を免除するための証明である。

解答 (1)

例題 9

航空法施行規則でいう「作業の区分」について次のうち正しいものはどれか。

- (1) 保守は、修理と整備に区分される。
- (2) 保守は、修理、整備及び改造に区分される。
- (3) 修理は、保守と整備に区分される。
- (4) 修理は、保守、整備及び改造に区分される。
- (5) 整備は、保守と修理に区分される。
- (6) 整備は、保守、修理及び改造に区分される。

解答 (5)

例題 10

耐空検査員が耐空証明を行うことができる航空機として次のうち正しいものはどれか。

- (1) 中級、上級及び動力滑空機
- (2) 軟式飛行船及び滑空機
- (3) 超軽量飛行機
- (4) すべての航空機。

解答 (1)

例題 11

業務規程の記載事項で次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 認定業務の能力及び範囲並びに限定
- (2) 業務を実施する組織及び人員に関する事項
- (3) 航空整備士の行う確認の業務に関する事項
- (4) 品質管理制度その他の業務の実施の方法に関する事項
- (5) 業務に用いる設備、作業場及び保管施設その他の施設に関する事項

解答 (3)

例題 12

技能証明の限定で次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 航空機の種類
- (2) 航空機の等級
- (3) 航空機の型式
- (4) 発動機の等級
- (5) 業務の種類

解答 (4)

例題 13

法第27条第2項に、技能証明試験で不正行為があった者について、国土交通大臣が技能証明の申請を受理しないことができる期間が定められているが次のうち正しいものはどれか。

- (1) 6月以内
- (2) 1年以内
- (3) 2年以内
- (4) 3年以内

解答 (3)

例題 14

国籍記号及び登録記号の表示の方法及び場所について次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 飛行機の主翼面にあつては左右の最上面及び最下面に表示する。
- (2) 回転翼航空機の場合には胴体底面及び胴体側面に表示する。
- (3) 国籍は装飾体でないローマ字の大文字 J A で表示しなければならない。
- (4) 登録記号は装飾体でない四個のアラビア数字又はローマ字の大文字で表示しなければならない。

解答 (1)

例題 15

識別板に打刻しなければならない事項で次のうち正しいものはどれか。

- (1) 航空機の所有者の氏名又は名称並びにその航空機の国籍記号及び登録記号
- (2) 航空機の所有者の氏名又は名称及び住所並びにその航空機の国籍記号及び登録記号
- (3) 航空機の使用人の氏名又は名称並びにその航空機の国籍記号及び登録記号
- (4) 航空機の使用人の氏名又は名称及び住所並びにその航空機の国籍記号及び登録記号

解答 (2)

例題 16

航空機を航空の用に供する場合に備え付けるべき書類として次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 型式証明書
- (2) 航空機登録証明書
- (3) 耐空証明書
- (4) 運用限界等指定書

解答 (1)

例題 17

次の救急用具で60日ごとに点検しなければならないものはどれか。ただし、航空運送事業者の整備規程に期間を定める場合を除く。

- (1) 救急箱、落下傘、防水携帯灯
- (2) 救急箱、非常信号灯、救命胴衣
- (3) 救命胴衣、救命ボート、落下傘
- (4) 防水携帯灯、非常信号灯、救命ボート

解答 (1)

例題 18

夜間に使用される空港等で航空機を照明する施設がない場合の停留の方法について、次のうち正しいものはどれか。

- (1) 当該航空機の右舷灯、左舷灯及び尾灯で表示しなければならない。
- (2) 当該航空機の右舷灯、左舷灯及び衝突防止灯で表示しなければならない。
- (3) 当該航空機の右舷灯、左舷灯、尾灯及び衝突防止灯で表示しなければならない。
- (4) 当該航空機の衝突防止灯で表示しなければならない。

解答 (1)

例題 19

運航規程に記載しなければならない事項として次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 航空機の運用の方法及び限界
- (2) 航空機の操作及び点検の方法
- (3) 装備品、部品及び救急用具の限界使用時間
- (4) 装備品、部品及び救急用具が正常でない場合における航空機の運用許容基準

解答 (3)

例題 20

騒音の基準の適用を受ける航空機について次のうち誤っているものはどれか。

- (1) ピストン・エンジンを装備する飛行船
- (2) ターボファン・エンジンを装備する飛行機
- (3) ターボジェット・エンジンを装備する飛行機
- (4) ターボシャフト・エンジンを装備する回転翼航空機

解答 (1)